

# 三中だより

令和3年度 4月号



令和3年4月8日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No. 1)  
校長 小柴 憲一

## 「三中生らしき」の継承

昨年度の2学期の終業式、学年末の修了式で、子どもたちに「三中生らしき」について話をしました。なぜその話をしようと思ったかという、2学期の後半に、当時の3年生の面接指導をしていて「あなたの通っている荒川区立第三中学校というのは、どのような中学校ですか？」という質問をしたとき、

- 委員や係の人が自分の責任を果たし、みんながそれに協力していける学校です。
- 生徒たちの力で学年や学級の問題を見つけて、話し合いをして解決していける学校です。
- 教科の授業だけではなく、「校内ハローワーク」や「おもしろ探究授業」などの行事で、勉強する意味を学べる学校です。
- 授業では、ただ先生から教えてもらうのではなく、図書やタブレットなどで調べたり、友だちと学び合ったりして、自分の考え方を論文にまとめたりプレゼンしたり、弁論大会で主張したりすることのできる学校です。
- 一人一人考え方は異なっても、「三中生らしくしよう」ということでは一致している学校だと思います。
- 運動会・朝礼・避難訓練などの全校行事では、上級生は下級生に手本を示して、下級生はいずれ同じように手本となっていく学校です。
- 休み時間などはほかの学校と同じだと思いますが、授業になったらとても真剣になる学校だと思います。

など、他にも、「友だち同士で悩みを相談し合ったりできる学校」「おとなしかったり、あまり積極的になれない子もクラスの一員になっていく学校」など様々な回答が出てきました。

私は面接指導をしていて、第三中学校の捉え方の表現は違うものの、一人一人が「これからもこうであってほしい」という期待をもっていると感じました。また、ある子どもが言っていた「三中生らしくしようということでは一致している」の「三中生らしく」は、人によって異なるでしょうが、良い伝統を受け継いでいってほしいという願いが込められているとも感じました。

本校は、自治活動が盛んな学校です。

きっとこれまでも、子どもたちが暗黙のうちに、望ましいと思われる取組みや言動を受け継いできたものと思われます。暗黙知は、人の主観によるもので言葉にすることが困難なものですが、「例えばどんなことか」という例をあげていくことにより、定義づけるまではいかななくても、言葉で人に伝えることはできます。

そこで、2学期の終業式、学年末の修了式で、私は以下のように話しました。

### <2学期終業式より抜粋>

この節目に、皆さんには「あなたが思う三中生らしき」について考えてもらいたいと思います。アウトプットできるように、声に出して文で言えるようになれば、それが、あなたが思う「三中生らしき」です。

### <学年末修了式より抜粋>

さて、年度が進んでも、普遍的な「三中生らしき」は変わりません。

そこで、ここからは皆さんへの強いお願いです。

「三中生らしき」の解釈は様々あると思いますが、例えば、生徒会本部や専門委員会を中心とした皆さんの

力による自治活動、係や班などの役割を果たしながら毎日の安定した学校生活を作り上げること、行事で三中の伝統を確実に引き継いでいくこと、自分たちで望ましいと思われるルールを作り、そのルールを遵守しながら適正に楽しんでいくこと、そして、上級生が下級生に範を示すこと、それらを新2年生、新3年生の皆さんには早くに作り上げていってほしいのです。

そして、今年度の始業式と入学式では以下のような話をしました。

#### <始業式より抜粋>

2点目は、『『三中生らしさ』を新入生に見せてほしい』ということです。

修了式で「三中生らしさは変わらない」と話しました。最上級生は卒業しましたが、皆さんが、新しい人間関係を作り上げながら、一つ上の学年らしく成長していくので、結局「三中生らしさ」は維持され、2年生・3年生は三中生らしく生活をしていくことになるのです。しかし、新入生は、そもそも「三中生らしさ」というものを知りません。

明日、約180名の新入生が入学してきます。

皆さんが三中に入学してくるとき、三中に行くのは当たり前と思って入学してきた人もいれば、そうでない人もいたはずで。約180名の新入生の中にも仕方なく三中に入学したという人もいでしょう。しかし、皆さんがそうであったように、三中の生徒になったからには「三中生らしさ」を受け継いでいってもらわなければなりません。

皆さんが新しい人間関係を作り上げ、一つ上の学年らしくなるように、新入生にも出身小学校にこだわらず、また小学校時代にあった苦い思いを乗り越えて新しいクラスを作り、小学校6年生ではなく第三中学校の一年生らしくなってもらうために、皆さんが、新入生に対して「三中生らしさ」を見せ、その魅力を伝えていってください。それができるのは皆さんだけであり、先生方が言葉で教えるよりもずっと分かりやすく、そして効果があるのです。

#### <入学式より抜粋>

それは、早く「三中生らしくなる」ことです。

皆さんが入学するにあたり、夢と希望をもっている人、ただ単に三中に入学するものだと思っていた人、様々な事情があつて「やむを得ず」という人など様々だと思います。

しかし、三中に入学したからには「三中生らしく」なってほしいと思います。

「三中生らしさ」とは、たくさんありますが5点だけ例をあげます。

- 一 委員会や係などの役割を果たしながら自分たちで生活のリズムと秩序を作りあげ、行事を成功させて学級・学年の結束力を高めること
- 一 先生から教えられる学習だけではなく自分たちで調べたり学び合ったりして、自分の考えをもち、発言・プレゼン・レポート作成・弁論をすること
- 一 様々な特徴のある人と共同して生活や学習をし、人間の多様性を理解し望ましい言動をすること
- 一 過去の人とのトラブルを引きずらず、常に新しい自分をつくり、良好な人間関係を築き上げること
- 一 自分の健康を自己管理するとともに、災害など非常時には全員が何分間も一言もしゃべらず沈黙を維持し先生方の指示を待つこと

いかがでしょうか。

いっぺんには理解できないでしょうが、今の5点については、後ほど教室で担任の先生から配布されますので読んでみてください。

また、昨日の始業式で、2・3年生に対して「新入生に『三中生らしさ』を示してあげるように」と話しました。ですから、今後、専門委員会・部活動・朝礼・避難訓練などの2・3年生の姿を見る場面で「三中生らしさ」を感じることとなります。それが、皆さんの「社会を構成する一員」としての自覚を高める機会となることを期待しています。

「三中生らしさ」をキーワードに、全学年が大きく飛躍する一歩となることを願っています。

今年度も、「社会を構成する一員としての自覚を高める」「一人一人の子どもを大事にする」を2つの柱に、教職員一同頑張っていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。